

外国人研修員 豆つかみ挑戦

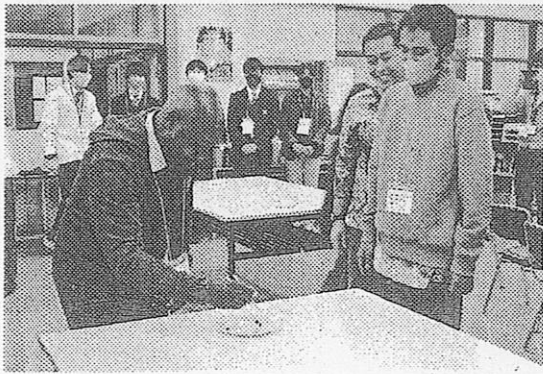
白糠高生と交流

【白糠】国際協力機構（JICA）の外国人研修員8人が3月28日、白糠高校（田村信明校長）を訪れ、同校生徒6人と国際交流を図った。さまざまな国の文化を学ぶことや、異文化交流の楽しさを実感するJICA学校訪問プログラムの一環で、国際協力機構北海道セ

ンター（帯広市）が主催した。

この日は、掘削技術専門学校で掘削技術などを学んでいるインドネシア、エチオピア、ジブチ、タンザニア国籍の研修員が来校し、同校生徒会執行部が出迎えた。簡単な英語で自己紹介したあと、椅子取りゲームや豆つかみリレーを実施。豆つかみリレーでは、初めて使う箸に四苦八苦する研修員もいたが、生徒からのアドバイスを受け、触れ合いの時間を楽しんだ。

引き続き、生徒らが同校で実施している学校行事、研修員らが各国の特産品や文化、歴史などをクイズを織り交ぜながら紹介し、交流を深めた。タンザニア国籍のアントニアロイスさ



豆つかみリレーに挑戦するJICA研修員ら

ん（38）は「ゲームがとても楽しかった。さらに日本が好きになった」と笑顔。同校生徒会会長の武内萌花さんは「最初は緊張したが、徐々にコミュニケーションをとることができた。貴重な機会で楽しかった」と話していた。（森崎博史）